

～安全・安心が当たり前の社会へ～

関東警報機株式会社 代表取締役社長
東京都セキュリティ促進協力会 理事 総務委員会委員長

木原 浩盛



弊社は昭和33年1月の創業からお陰様で65年を迎えました。東京を中心に関東圏で防犯センサー及び防犯カメラなど防犯システムの設計・施工・販売・保守管理をまとめてお客様それぞれに合った防犯対策を設計しております。

現在まで防犯業務を38年間務めてきて特に印象に残っていることは、小笠原諸島の父島に防犯カメラシステムを取り付けに行ったことです。父島は東京から南へ約1,000kmの太平洋上の島です。人口は約2,000人で世界自然遺産にも登録され、多くの固有種・希少種が生息・生育している自然豊かな島です。

今までに様々な場所（一般住宅・店舗・会社・共同住宅など）で防犯センサーや防犯カメラを取り付けてきました。父島での作業は普段おこなっている防犯カメラ設置工事と全く変わらないのですが、島を行き来する船が1週間に1便で26時間かかることもあり、予定の工期内で工事を完了させることと、材料及び資材の管理が大変でした。材料及び資材が不足になった場合、注文しても船の運航スケジュール次第では届くのに1週間以上かかる場合もあったので、かなり気を使いました。

弊社が設置した街頭防犯カメラで凶悪事件が解決したことも印象に残っています。

街頭防犯カメラの映像で凶悪事件の犯人逮捕の決め手になったことが数件ほどあり、ある事件では「防犯カメラの映像がなかったら迷宮入りになっていたかもしれない」と刑事さんに言われたときには責任の重大性を改めて痛感いたしました。設置した自治会などから「街頭防犯カメラを設置してからは自転車盗や落書き、不法投棄などが減った」とのお言葉を頂いた時には大変うれしく思います。

最近では強盗事件が多く発生しておりますが、ひと昔前と比べ事件の凶悪化が見受けられます。

テレビのニュースや情報番組などで防犯カメラの有効性などをよく述べています。その影響のせいか、多くの方が防犯カメラを設置すれば侵入盗などの被害は防げると思っている方が多いと感じております。

昔は防犯カメラを設置すれば犯罪抑止の効果も期待されておりましたが、最近多く発生している強盗事件では防犯カメラが設置してある店舗でも被害にあわれている事から、抑止力としての効果が失

われつつあるかと思えます。

ただし、街頭防犯カメラを設置してある町会や商店街などでは自転車盗や不法投棄・落書きなどの軽罪が減少したとよく聞きます。これからは防犯センサーシステム・防犯カメラシステムを設置した場合のメリット・デメリットをお客様に正確に伝えその現場にあった提案をすることが望ましいと考えられます。

創業者の政本猛から会社を受け継いで3年が経ちましたが、東京で、日本で一番古い歴史の電化防犯業者として「防犯相談・診断」、「設計・見積り」、「設置工事・保守」等ができる会社として、これからも安全・安心が当たり前の社会を目指して頑張っていく所存であります。



SDIカメラ